平成２６・２７年度　熊本県教育委員会指定
環境教育研究推進校

# 研究主題

## 感じ、考え、環境に働き掛ける実践力を身に付けた児童の育成
## ～「命・人・もの」とつなぐ授業づくり～

ぼくたち地球守り隊
（環境キャラクター）

**久木野小学校環境教育スローガン**

**出しっぱなし　つけっぱなし　使いすぎじゃ　もったいない**
**地球を守ろう　未来のために**

平成２７年１１月２６日（木）
南阿蘇村立久木野小学校

# 研究構想図

## 学校教育目標

## 「生きる力」を身に付けた児童の育成

### めざす児童像

① 環境に主体的に関わり、感じ、考えながら授業に取り組む児童
② 地域の人やもの、文化に積極的に関わりを持つ児童
③ 学んだことを学校や家庭、地域において実践していく児童

| 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|---|---|
| 環境とつながり、感じる心を高め、そのすばらしさに気付く児童 | 環境とつながり、環境との関わりについて考え、理解する児童 | 環境とつなげる学習を通して、環境を守るためにできることを実践する児童 |

## 研究主題

**感じ、考え、環境に働き掛ける実践力を身に付けた児童の育成**
**～「命・人・もの」とつなぐ授業づくり～**

### 感じ、考える授業

仮説1（授業づくりについて）
授業者が「環境を捉える視点」と「環境教育を通して身に付けさせたい能力や態度」を明確に持ち、「命・人・もの」とをつなぐ授業づくりを工夫すれば、児童は、環境について感じ考え、環境に働き掛ける実践力を身に付けるであろう。

### 実践する場の保障

仮説2（環境づくりについて）
児童の思いや考えを具現化する教育環境づくりを学校総体で工夫すれば、児童は、環境について感じ、考え、環境に働き掛ける実践力を身に付けるであろう。

### 研究の具体的内容

- ●ESDカレンダーの作成と活用及びカリキュラム開発
- ●環境教育を根底に据えた各教科、領域等の授業づくり
- ●「環境を捉える視点」と「環境教育を通して身に付けさせたい能力や態度」の具体的内容の理解
- ●環境教育と各教科、領域等との関連、各学年の系統性の精選
- ●環境とつなげる体験活動の計画的実践と各教科・領域等との関連
- ●体験活動の充実

- ●地域人材、文化マップ「久木野っ子応援団」の再検討と各教科、領域等との関連の精選
- ●校内掲示、教室環境の整備
- ●全校共通実践と児童会活動の活性化
- ●学校版環境ISOの計画的、積極的な取組
- ●地域、家庭との連携と啓発活動
- ●「水俣に学ぶ肥後っ子教室」の計画的、継続的な取組と、全校・家庭・地域等への啓発

**児童の実態・保護者・地域住民の願い**

## 人権教育・環境教育の視点

研究主題

# 感じ、考え、環境に働き掛ける実践力を身に付けた児童の育成
## ～「命・人・もの」とつなぐ授業づくり～

## 主題設定の理由

（1） 今日的課題から
「生きる力」の育成
① 「確かな学力」問題解決能力
② 「豊かな人間性」感動する心
③ 「健康・体力」たくましく生きる

（2） 学校教育目標から
① 「『生きる力』を身に付けた児童の育成」の具現化
② 三つの心「命・人・ものを大切にする心」の継続的取組

（3） 児童・地域の実態から
① 豊かな自然に恵まれている。
② 環境に触れる機会に個人差がある。
③ 責任感・自主性に個人差がある。
④ 村外、県外からの転入が多い。

## 環境教育のねらい

＜学習指導要領における環境教育：「生きる力」を育成する環境教育＞
環境教育は、広範囲で多面的、総合的な内容を含んでおり、各学校段階、各教科等を通じた横断的・総合的な取組を必要とする。そのため学校における環境教育は、以前から特別な教科を設けることは行わず、各教科、道徳の時間、特別活動、総合的な学習の時間等の中で、それぞれの特性に応じ、また、相互に関連させながら学校の教育活動全体の中で実施する。

・環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（平成23年）
・熊本県環境教育基本指針
・環境教育ガイドライン
・H27県義務教育課取組の方向
・持続可能な発展のための教育（ESD）

## 学校における環境教育の基本的な考え方【「環境教育指導資料」（幼稚園・小学校編）より】

「環境から学ぶ」
環境に対する見方や考え方の育成

「環境について学ぶ」
環境に対する豊かな感受性の育成

「環境のために学ぶ」
環境に働き掛ける実践力の育成

## 研究主題の捉え方

【感じ、考える】
小学校の環境教育は、児童が周囲の環境と関わりを持ったり、具体的な体験をしたりすることから始まる。そこから、環境について感じ、考えを深める基礎を培う。

【環境に働き掛ける実践力】
環境教育は目の前に存在し、現象として見えるリアルな環境を対象とする。児童が自ら責任ある行動を取り、協力して問題を解決していく実践力を身に付ける。

【「命・ひと・もの」とつなぐ】
本校の伝統として受け継がれている「三つの心」。学校、家庭、地域など自分たちを取り巻く人々や自然、文化などとつなぐ授業を構築していく。

## 環境教育を通して身に付けさせたい能力や態度

＜環境教育を通して身に付けさせたい能力や態度＞
(ア) 環境を豊かに感受しようとする能力 【感じる力】
(イ) 自らの生活との関係の中で問題を捉える能力と観察や実験調査等の計画を立てる能力 【計画する力】
(ウ) 自分に必要な情報を収集したり、発信したりする能力 【伝え合う力】
(エ) 環境に興味・関心をもち、自ら関わろうとする態度 【自ら関わろう】
(オ) 相手の立場や考えを理解し、社会的な合意を形成しようする態度 【考えを聞き合おう】
(カ) 合理性や客観性を伴った公正な判断をしようとする態度 【公正に決めよう】
(キ) 自ら進んで環境の保全に向けた実践を行おうとする態度 【やってみよう】

## 環境を捉える視点

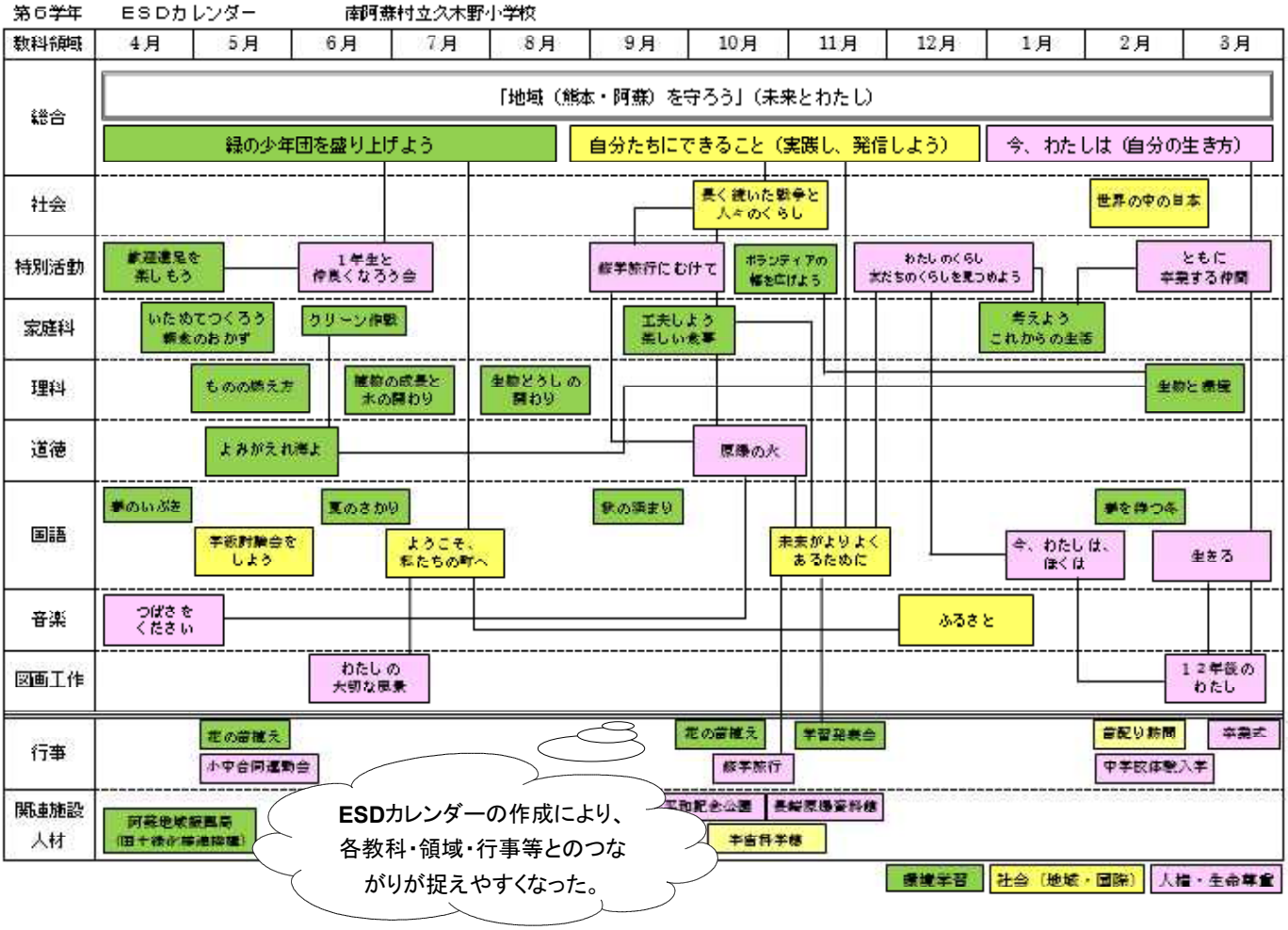
＜環境を捉える視点＞
①生命尊重
②豊かな感受性
③人と自然との共生
④循環・有限性
⑤保全

## ESD【持続可能な発展のための教育（Education for Sustainable Development ）】から

【文部科学省ホームページより】

ESDとは、将来にわたって持続可能な社会を構築する担い手を育む教育のことである。
本校では、ESDの視点の中で、
①環境教育を中心として、②人権・生命尊重、③社会（地域・国際）の3つに重点をおいた。
環境教育年間指導計画を基盤に、3つの視点で、各教科・領域等を関連づけたESDカレンダーを作成し、生活科・総合的な学習の時間を中心とし、「持続可能な社会の発展のための人材育成」を目指して取り組んでいく。

# ＥＳＤカレンダーの作成




## 環境教育を通して身に付けさせたい能力や態度の具体的内容と系統性

| | 能力 | | | 態度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 環境に積極的に働きかけ、環境保全やよりよい環境の創造に主体的に関与できる能力 | | | 生活環境や地球環境を構成する一員として環境に対する人間の責任や役割を理解し、積極的に働き掛けをする態度 | | | |
| | 視覚や聴覚だけでなく触覚などの自らの諸感覚を活用して、**環境を豊かに感受しようとする能力** | **自らの生活との関係の中で問題を捉える能力**や問題を解決するための予想や仮説を立て、それに基づいて**観察や実験、調査等の計画を立てる能力** | 環境に関して、**自分に必要な情報を収集**したり、相手の状況などを踏まえて**発信したりする能力** | 周囲の**環境に興味・関心を持ち**、身体活動を伴った体験活動を通して環境に積極的に働き掛け、**自ら関わろうとする態度** | 環境問題について自分の考えや意見を持ってそれを表現するとともに、相手の立場や考えを理解し、社会的な**合意を形成しようとする態度** | 多面的・総合的な観点から捉え、データや根拠に基づき実証的に考え、合理性や客観性を伴った**公正な判断をしようとする態度** | 議論や活動に主体的に参加し、**自ら進んで環境の保全に向けた実践を行おうとする態度** |
| | （ア）感じる力 | （イ）計画する力 | （ウ）伝え合う力 | （エ）自ら関わろう | （オ）考えを聞き合おう | （カ）公正に決めよう | （キ）やってみよう |
| 低学年 | 身の回りの環境のよさや不思議さを感じる。 | 身の回りの環境に関して、自分の生活との関係に気付く。 | 身の回りの環境について学習したことを友だちと伝え合う。 | 身の回りの環境について身体活動を伴った体験活動をしようとする。 | 身の回りの環境について学習したことを表現し、相手の考えをしっかり聞く。 | 身の回りの環境についてよりよいことは何か、考えて決める。 | 身の回りの環境について考え、よりよいことに進んで関わろうとする。 |
| 中学年 | 地域の環境に意識的に関わり、豊かに感受しようとする。 | 地域の環境や環境問題に対して自分の生活との関係の中で問題を捉える。 | 地域の環境について学習したことを相手にわかりやすく伝える。 | 地域の環境に興味・関心を持ち、自ら関わろうとする。 | 地域の環境について学習したことを表現し、お互いの考えを比べながら聞き合い、認め合う。 | 地域の環境についてよりよいことは何か、自分の生活と関連させながら、考えて決める。 | 地域の環境についての考えを広げ、保全活動等に進んで関わろうとする。 |
| 高学年 | 郷土や社会の環境に意欲的に関わり、豊かに感受しようとする。 | 郷土や社会の環境や環境問題に対して、進んで働き掛け、その解決の構想を立てる。 | 郷土や社会の環境について学習したことを相手に効果的に発信する。 | 郷土や社会の環境に興味・関心を持ち、環境に積極的に働き掛け、自ら関わろうとする。 | 郷土や社会の環境について学習したことを表現し、比べながら聞き合い、よりよいものにする。 | 郷土や社会の環境についてよりよいことは何か、合理的、客観的に考えて決める。 | 郷土や社会の環境についての考えを深め、保全活動等に進んで関わろうとする。 |

○学習内容の例：身の回り（学校や家庭）地域（久木野校区や南阿蘇村）郷土（南阿蘇村、阿蘇、熊本県、日本）社会

「感じる」「考える」「実践する」ことを中心に、身に付けさせたい能力や態度をつなげて取り組んだ。

取組の実践例

命とつなぐ

人とつなぐ

ものとつなぐ

# 低学年部

環境とつながり、感じる心を高め、そのすばらしさに気付く児童

### 【１年：わたしはもんしろちょう（道徳）動植物愛護】

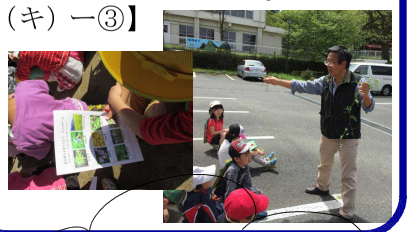
あさがおに話しかけていた体験から、もんしろちょうに対する声かけもスムーズにでき、気持ちを重ねることができた。

【(ア) ー①】

### 【２年：春の図かん（生活】

地域の植物に詳しいＧＴと一緒に、校区の草原に出かけ、観察した。地域の草原には、クララや絶滅危惧種のオオルリシジミがいることを知った。

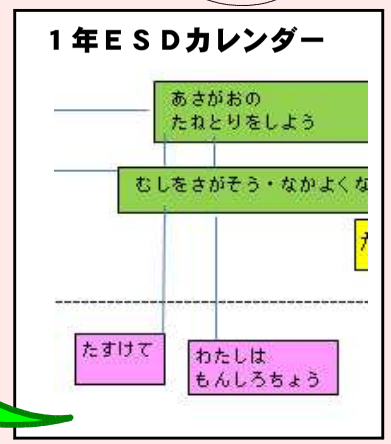
【(キ) ー③】



生活科と道徳の相互の関連を年間を通して、計画的に進めていった。

### 【１年：たすけて（道徳）生命尊重】

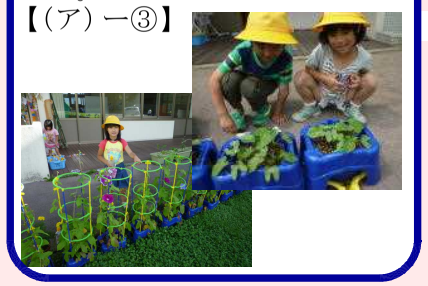
授業の終末では、秋の草花を教えていただいたＧＴに、久木野にも生息する絶滅危惧種である「オオルリシジミ」について教えていただいた。命を大切にしながら虫と仲良くしていくことを考えた。【(ア) ー①】




### 【１年：あさがお 大きくなあれ（生活）】

あさがおに名前をつけて観察を続けた。「あっくん」「あさちゃん」と声を掛けながら世話をした。

【(ア) ー③】



### 【２年：どきどき　わくわく まちたんけん（生活）】

「まちたんけん」を重ねる中で、少しずつ「久木野のいいなぁ」に気付き始めてきた子どもたち。

実際に現地に出向き、自分自身で見聞きすることで、地域の良さをより強く感じることができた。

【(エ) ー③】

# 中学年部

環境とつながり、環境との関わりについて考え、理解する児童

### 【３年：いのちをいただく（道徳）生命尊重】

絵本「いのちをいただく」を題材に、自分の家族を含め、すべての勤労に対する価値を高めるとともに、大切な生命をいただいていることを改めて考えた。また、命のつながりを広く見つめることができた。

【(エ) ー①】

### 【３年：あか牛を見に行こう（総合的な学習の時間）】

南阿蘇の特産品あか牛について、繁殖牛生産農家や肥育牛生産牧場に行き、そのよさや違いを見学をする学習を進めた。あか牛に対する人々の思いにふれ、そのよさをみんなに伝えようという学習につなげた。

【(ア) ー③】

### 【３年：あか牛と草原（総合的な学習の時間）】

あか牛見学から、阿蘇のあか牛が放牧されている草原が減っていることを知った。草原とあか牛や生き物の関わりを現地へ行って学んだ。牛が放牧されている草原とその他の草原のちがいや草原の役割、草原を守るために行われている活動を知ることができた。【(ア) ー③】

### 【４年：草原を見に行こう（総合的な学習の時間）】

校区の草原に実際に出向き、野草や生き物の観察をした。阿蘇の絶滅危惧種である「オオルリシジミ」を発見し、動植物など、全ての生命を大切にすることとつなげて考えた。

【(ア) ー③】

### 【４年：用水路を見に行こう（総合的な学習の時間）】

地域のＧＴを招き、校区や地域を流れている用水路の現状や役割について、実際に用水路沿いに歩きながら、学習を進めた。

水田や用水路を守るための人々の知恵や努力を知ることができた。

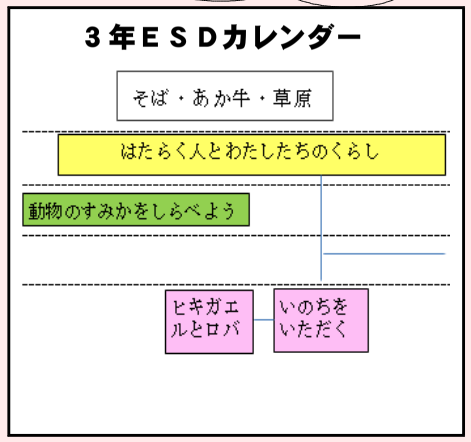
【(ア) ー④】

### 【４年：ごみのしょりと利用（社会）】

ごみ処理場見学や産業廃棄物協会の出前授業から学んだことをもとに、ペットボトルごみの減量とそれに関わる人々の取組にについて話し合った。

【(ア) ー④】

年間を通した総合的な学習の時間の取組の中で、ＥＳＤカレンダーに基づいて道徳の授業を行った。




# 高学年部

環境とつなげる学習を通して、環境を守るためにできることを実践していく児童

### 【５年：この子とともに（道徳）生命尊重】

水俣病を環境破壊の視点から考え、多くの命が失われ、人々が苦しんできたことを捉えさせた。自分たちの生活とつなげ、命の大切さを深めることにつなげた。

【(カ) ー①】

### 【５年：水俣に学んだことを発信しよう（総合的な学習の時間）】

学習発表会では、環境汚染の立場から、水俣の人々の取組をまとめ、校内や保護者へと発信した。環境と命がつながっていることを伝えた。【(カ) ー①】

### 【５年：水俣に学ぶ肥後っ子教室（総合的な学習の時間）】

①事前学習：６年生が「５年生に水俣で学んでほしいこと」を書き出し、５年生に伝えた。

②現地学習：「見る、聞く、感じる」をキーワードに、現地でこそ体験できることを通して学んだ。

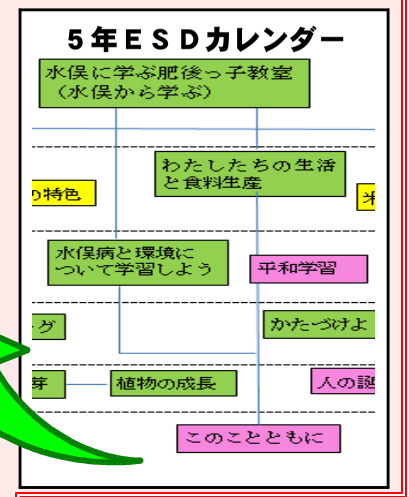
③事後学習：現地学習で見聞きし、感じたことを中心に、６年生、先生達、保護者に伝えたいことを壁新聞にまとめた。

【(ア)（エ）ー②】

### 【６年：原爆の火（道徳）生命尊重】

なぜ、多くの命を奪った原爆の火が消されずに残されているのかについて考えた。原爆の恐ろしさと命の尊さを忘れないためと思いを伝えていた。【(オ) ー①】

ＥＳＤカレンダーで各教科等とのつながりと視点を明確にしたことで、授業のめあてが明らかになった。




### 【６年：緑の少年団をもり上げよう（総合的な学習の時間）】

全学年の縦割り班活動で、花の苗植えを行った。花だんコンクールとして、準備、計画、実施、保全までの活動を６年生中心に進めた。

【(イ) ー③】

### 【６年：トライ！エコ生活（家庭科）】

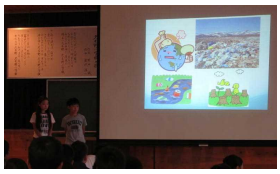
不用品の活用について、カードで分別体験をすることでエコ生活にする意識を高めた。

【(キ) ー④】

# 学校版環境ISOや特別活動等

## 【運営委員会（児童集会）】

わたしたちが便利なくらしをしている反面、絶滅の危機にある動物たちがいることや地球で起こっていることについて児童集会で発表した。環境問題に関心を持つきっかけになった。



## 【環境委員会（５、６年出前授業と委員会活動）】

難民の人に服を送るリサイクル活動に参加することで、世界の難民の現状について考える機会となった。

服のリサイクル活動は保護者にも呼びかけた。

## 【ふれあい活動（全校行事）】

本校では、年間を通して地域の人とのふれあい活動に取り組んできた。

①運動会（５月）：３年生は敬老会の方々と一緒に競技を行った。

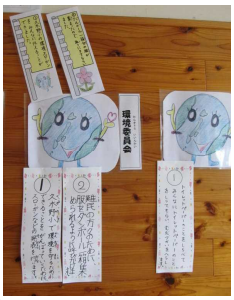
②ふれあい活動（９月）：地域の高齢者と昔遊びを通して、交流活動をした。

③年賀状（１２月）：地域の一人暮らしの方へ年賀状を送る取組を縦割り班活動で続けてきた。

④花苗配り（２月）：事前に自分たちで植え付けた花苗を年賀状を出した一人暮らしのお年寄りの方へ届ける活動を続けてきた。　（４～６学年）

## 【学校版環境ISOの取組】

４月の委員会年間計画作成時に、学校版環境ＩＳＯに関して、事前に計画してある毎月の生活目標とつなげ、各委員会で取り組むことを計画した。それが達成できたらのぼりが上がるようにすることで意識化でき、学校全体での取組につながってきた。



命とつなぐ

人とつなぐ

ものとつなぐ

## 学んだことを学校や家庭、地域において実践していく児童

毎年、花を届けることを喜んでくださった。

たくさんの生き物がいるんだなあ。

久木野っ子応援団の方から、苗の植え方や生け方、昔遊びを教わった。

保護者も世界の難民に送る服のリサイクル活動に積極的に協力をしていただいた。

# 成果と課題

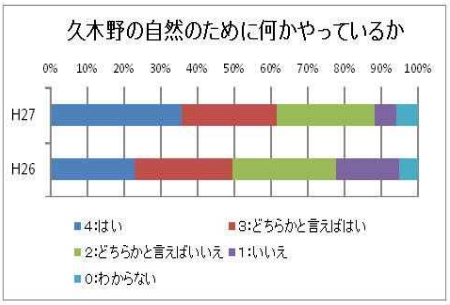
【成果】

**＜仮説１に関して＞**

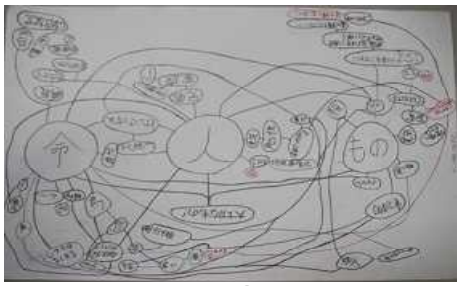
・「環境教育を通して身に付けさせたい能力や態度」及び「環境を捉える視点」を明確にし、「命・人・もの」とつなぐ授業を実践したことで、図①のように、児童の環境に働き掛ける実践力が高まったことがわかる。

・教科・領域等やこれまでの体験活動等とつなげて学習を進めてきたことで、図②のイメージマップのように、児童自身が「命・人・もの」がつながっていることを捉えることができるようになった。

・ＥＳＤの視点を明確にしたことで、各教科・領域等のつながりを考えた授業づくりができ、実践につなげることができるようになった。本校職員、児童のみならず、保護者にも環境保全の意識が高まり、自ら関わろうとしたりする意識の高まりがあった。




図①




図②

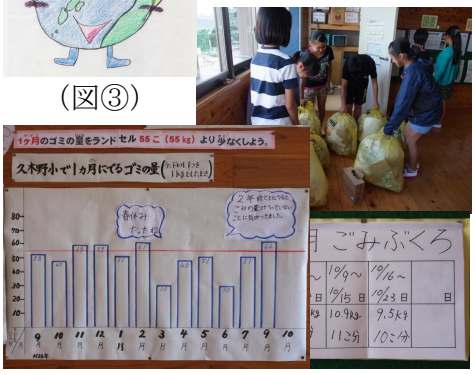
**＜仮説２に関して＞**

・環境キャラクターと環境標語を児童から募集し、環境スローガンを設定したことで、環境に積極的にかかわろうとする意欲が高まった。（図③）

・児童会活動では、各委員会の計画、活動、結果までの経過を「めざすもの」、「達成できたもの」などに分類し、わかりやすく掲示した。児童の活動への意欲が高まり、取組が継続された。

・学校版環境ＩＳＯの取組については、継続的な実践の中に基準値と基準年を設定したことで児童が取組による変化に気付くことができた。また、学校だけでなく、家庭や地域でも実践しようとする児童の意識が高まった。（図④）

（図③）




（図④）

【課題】

・児童の「環境をよくしよう」という意識の高まりは見られたが、実践をさらに広げ、深めるためには、家庭や地域とのより緊密な連携が必要である。

【参考文献】

「小学校学習指導要領」　文部科学省

「小学校学習指導要領　解説－総則－」文部科学省

「環境教育指導資料」

国立教育施策研究所　教育課程研究センター

「学校における環境教育の一層の充実」

熊本県教育委員会

「かざぐるま通信」　光村図書

「研究紀要」　球磨村立一勝地小学校

「研究紀要」　菊池市立七城小学校

【研究同人】

（平成２７年度）

東　光洋　緒方　良行　日置　潤子

森川　聖旨　小島　秀章　森田　朋子

久末まち子　池田　智子　藤嶋由紀子

緒方　嘉樹　中島　美鈴　鳩野　文也

木村美紗季　三森　恵理　金子　文菜

後藤　裕子　川原美代子

（平成２６年度）

福島　健太　豊永美樹子